

全国救護施設協議会 令和6年度

第46回

全国救護施設 研究協議大会

開

催

要

綱

テ
ー
マ

～地域共生社会の実現に向け、セーフティ
ネットとしての救護施設機能を広げよう!!～

期 日

令和6年 10月 17日(木)～ 18日(金)

会 場

全体会・分科会・情報交換会:札幌パークホテル

〒064-0810 北海道札幌市中央区南10条西3丁目 (TEL 011-511-3131)

主 催

社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国救護施設協議会

北海道地区救護施設協議会、社会福祉法人北海道社会福祉協議会

後援(予定)

厚生労働省、北海道、札幌市、社会福祉法人札幌市社会福祉協議会

参加者

①全国救護施設協議会会員施設の役職員

②救護施設関係者、生活保護・保護施設担当行政職員、社会福祉協議会関係者、
救護施設以外の厚生事業関係施設(更生施設、宿所提供施設、宿泊所、ホームレス自立支援施設、女性自立支援施設、障害者支援施設等)関係者で本大会のプログラムに関心のある方

定 員

550名

参加費

13,000円

趣 旨

令和6年4月、「生活困窮者自立支援法等の一部を改正する法律」が公布され、被保護者への支援体制等に関する検討を行う調整会議を組織できる旨が生活保護法に規定された。

さらに、救護施設を取り巻く状況として、同年4月より、入所者の地域移行の推進等を図るための取り組みとして、就労定着支援等を行う就労支援員の配置への加算、通所事業の地域枠の拡充等が実施されている。また、10月からは、個別支援計画の策定が義務化され、福祉事務所と支援に関する情報共有が求められる。

救護施設は、真に支援を必要とする人を受け止める「最後のセーフティーネット」として専門性を積み重ねてきたところであるが、この度の法改正等を契機として、さらなる専門性の向上や地域からより頼られる存在となり得る実践を展開していくことが求められる。

本研究協議大会は、これらの状況を踏まえ、全国の救護施設の実践を一堂に持ち寄って学び合い、施設機能の一層の拡充をめざして開催するものである。

プログラム

10月17日(木)

10:30～11:00	【①開会式】	主催者挨拶・来賓挨拶／永年勤続功労者表彰
11:00～11:45	【②基調報告】	全国救護施設協議会 会長
11:45～12:30	【③行政説明】	厚生労働省社会・援護局保護課
12:30～13:30		＜昼食休憩・会場移動＞
13:30～17:30	【④分科会】	
18:00～20:00	【⑤情報交換会】	

10月18日(金)

10:00～11:00	【⑥特別プログラム】「分科会研究テーマから見た救護施設の取り組み」	登壇者：全救協 会長 大西 豊美 副会長 石井 謙次 " 川邊 智 " 西村 行弘 " 守家 敬子
		内 容：分科会での研究協議をもとに、各テーマの内容をさらに深める。
11:00～11:20		＜休憩＞
11:20～12:20	【⑦記念講演】	「アイヌに生きて…そしてこれからのアイヌ」 宇梶 静江氏 (詩人、「古布絵」作家、アイヌ文化伝承者)



1933(昭和8)年 北海道浦河町生まれ、23歳で上京し、その後結婚。
40歳で東京ウタリ会を立ち上げアイヌ民族の権利獲得の活動を行う。
60歳過ぎてから、アイヌの伝統刺繍の技法を元にした「古布絵」を始める。
2001年米国NGOの招きで訪米。ハーバード大学とマサチューセッツ工科大学で講演。
2011(平成23)年古布絵作家としての活動が評価され、吉川英治文化賞を受賞。
2018年「北海道」の名付け親である探検家・松浦武四郎の生誕200年を記念し、松浦氏の出身地・三重県松阪市で開かれたトークショーに長男で俳優の宇梶剛士さんと出演。
2020(令和2)年 自伝「大地よ！アイヌの母神、宇梶静江自伝」発刊。同年に後藤新平賞を受賞。
2021年1月アイヌの詩人を描いた映画「シマフクロウとサケ」上映と講演。
2021年88歳にして故郷北海道に帰ってきて、アイヌの学び舎、「シマフクロウの家」にて仲間たちと集う。
2022年ドキュメンタリー映画「大地よ アイヌとして生きる」完成。全国各地で上映される。
2023年北海道文化賞受賞。アイヌ文化賞受賞。

12:20～12:30	【⑧閉会式】	次期開催地挨拶(東北地区)／閉会挨拶
-------------	--------	--------------------

分科会研究内容

第1分科会

「地域共生社会に向けた救護施設の取り組み」

地域共生社会の実現に向けて、地域に居住する被保護者・生活困窮者への支援を含む、地域ニーズに対応した公益的な取り組み等について一層の機能強化を図るため、情報共有・意見交換を行う。

第2分科会

「全救協版個別支援計画書の活用」

全国の救護施設における個別支援の質を高めるために、全救協版の個別支援計画を活用し、利用者の自立支援に結びつけていくために、施設がどのような取り組みを展開しているのか情報共有・意見交換を行う。

第3分科会

「利用者の地域生活への移行に向けた取り組み」

入所時点から地域生活への移行を目標として、そのための生活能力向上の場として施設を利用する利用者のニーズをできる限り実現するため、救護施設が行う地域生活関係事業の一層の充実に向けた情報共有・意見交換を行う。

第4分科会

「虐待・権利侵害の根絶に向けた取り組み」

権利侵害・虐待の根絶に向けて、すべての関係者が「我がこと」として受け止め、さらなる人権尊重・尊厳保持を目指すために必要な取り組みについて情報共有・意見交換を行う。

第5分科会

「施設生活を豊かにする取り組み」

施設で行われる行事やレクリエーション活動等は、利用者の生活にくぎりや変化、あるいは利用者の相互の親睦など様々な効果をもたらしている。コロナ禍等の社会背景を経て進化・充実・発展させた活動等について情報共有・意見交換を行う。

分科会研究協議要領

- (1) 研究協議は分科会で行い、議長・助言者・運営責任者・記録係・会場係をおく。
- (2) 分科会の課題提起者は地区協議会の推薦とし、各分科会3名程度とする。
- (3) 各分科会とも提示するテーマによるグループワークの時間を設定する。
- (4) 大会参加者はあらかじめ出席する分科会を選択し、申込書に記入する。

運営体制

本大会の準備および運営のために、全国救護施設協議会常任協議委員会の総括の下、以下の委員会を設置する。

(1)大会実行委員会

- ・北海道地区救護施設協議会内において、大会実行委員会を設置する。
- ・実行委員会は、会議運営の実務面（係員の調整等）を担当する。

(2)分科会運営委員会の設置

- ・分科会を運営するために分科会運営委員会を開会式前日に開催する。
分科会運営委員会：2024年10月16日（水）16:30～17:30
- ・分科会運営委員会の構成は、分科会の運営責任者・議長・助言者・意見発表者（報告者）・記録係・会場係および事務局担当者とする。

参加申込み

(1)申込方法

参加申込は下記WEBサイトより行ってください。

<https://www.mwt-mice.com/events/zenkyukyo2024>

申込締切日：8月30日（金）



※宿泊・昼食等は、参加と合わせてお申しいただけます。詳細は申込サイトの「参加登録・宿泊のご案内」をご参照ください。

(2)参加取消について

原則として、入金後の参加取消や、研究協議大会当日の欠席にともなう参加費の返金はいたしません。大会終了後に資料を送付いたしますので、全救協事務局までご連絡ください。

(3)受付について

大会当日受付で参加券をご提示ください。参加費の領収書は振込用紙の控えをもって代えさせていただきますが、全国救護施設協議会会長名義の領収書が必要な方は、参加申込時に備考欄にご入力ください。なお、大会前日の受付は行いません。

個人情報の取扱いについて

申込時にご入力いただいた個人情報につきましては、申込受付等委託業者と、大会事務局（全社協高年・障害福祉部）、開催地事務局において共同利用させていただきます。個人情報は参加申込受付、参加管理、参加にあたり希望される宿泊等のサービス提供等、大会運営に必要な範囲内で使用いたします。

参加者名簿の作成について

事務局における参加者の把握、参加者同士の交流に資するため、申込時の情報を元に参加者名簿ならびに分科会参加者名簿（都道府県名、施設名、参加者氏名、役職名を記載）を作成し、当日参加者に配布させていただきますので、予めご了承ください。

お申込みについて

◆名鉄観光サービス株式会社 北海道営業本部(担当/中川、福元)

〒060-0003 北海道札幌市中央区北3条西1-1-1
札幌ブリックキューブ6階
TEL:011-205-5222 FAX:011-205-5220

プログラム内容について

◆開催地事務局

北海道社会福祉協議会 法人・施設支援部 施設福祉課内(担当/宮川)

〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7-1 かでる2.7 3階
TEL:011-241-3766 FAX:011-280-3162

◆全国救護施設協議会事務局

全国社会福祉協議会 高年・障害福祉部内(担当/志村)

〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル
TEL:03-3581-6502 FAX:03-3581-2428